

目的 中学生や高校生の非行、家庭内暴力や校内暴力が問題になりはじめて久しいが、これらの問題は家庭における食生活とも無関係ではなっていると思われる。今回は、警察に補導された生徒達と一般の中学生や高校生の家庭における食生活について調べ比較検討したので報告する。

方法 福岡市内の新興住宅地区、農業住宅地区、農業漁業地区、商業漁業地区の中学2年生、一私立高校の2年生と昭和58年7月から59年3月迄の9ヶ月間に福岡中央警察署に補導された中学生と高校生約150名を対象に家庭における朝食や夕食の状況と、外食、出前、インスタント食品や炭酸飲料などジュース類の利用度とお小遣いの金額などについて調べた。

結果 補導された生徒は男子で、中学3年生が最も多く中学2年、高校1年の順であり、女子では高校1年生が多く次が高校2年であった。一日の食生活に関しては、夕食では、一般中学、高校生と補導された生徒達の間に大きな違いはなかったが、朝食では著しい違いがあった。補導された生徒の半数は朝食めずであり、家族そろって食事をする者は1割しかいなかった。一日二食欠けている生徒も2割あった。尚、一般中学生でも、9割近くが朝食をとっている所もあれば、6割しかとっていない所もあり地域差がみられた。補導された生徒達の中には炭酸飲料やジュース類を食事代わりにしているのではないかと思われる程毎日大量に飲んでいている者が目立った。